

☆4月の大成図書館おすすめ本紹介☆

『何者』 朝井リョウ



若者の就職活動と、SNS（ソーシャルネットワークサービス）と自意識がテーマとなった直木賞受賞作品です。23歳で受賞した作者・朝井氏の、みずみずし過ぎるくらいにリアルに表現した現代の大学生の主人公たちの気持ちや行動はすでに社会で働く大人から見ると気恥しく感じますが、ツールが発達した現在、twitter、スマホ、Facebook・・・物語中に登場するアイテムや描写が紡ぎだすリアルさが現代の若者の姿をありありと描きだし、同世代には震えるくらいの共感を感じさせるでしょう。皆に知らしているツイッターのアカウントでは当たりさわりのないことをつぶやき、もう一つの誰にも知らせていないアカウントでは文句や悪口をぶちまける。見られていない前提のつぶやきが

実は自分の周囲にずっと見られていたとしたら・・・！？現実とネット

世界の裏表だけではなくネットの中のさらに裏表、就職活動を通じて、見せたい自分、否定される自分、本当の自分、自分とは一体何者なのか、ラストでは少しホッとできる主人公の成長に安心しました。ぜひ読んでみてください。

「ほんとうにたいせつなことは、ツイッターにもフェイスブックにもメールにもどこにも書かない。ほんとうに訴えたいことは、そんなところで発信して返信をもらって、それで満足するようなことではない。だけど、そういうところで見せている顔というものは常に存在しているように感じるから、いつしか、現実の顔とのギャップが生まれてしまう」（本文より）